

会 議 録

- 1 会議の名称 令和5年度 第2回妙高市介護保険運営協議会
- 2 開催日時 令和5年9月22日（金）18時30分から20時30分まで
- 3 開催場所 妙高市役所 402会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委 員 丸山明則（委員長）、太田智英（副委員長）、長谷川早苗
五十嵐加代子、片所昭夫、岩浅愛子、関睦美
水口悟、佐々木由美子、長澤芳夫、高橋芳夫
※欠席：丸山靖、安原源司、内田次美
 - (2) 執行機関 [福祉介護課] 田中かおる、丸山孝夫、小林英彦、池田浩之
原田浩成、古川歩、遠藤郁生、道下啓子
 - (3) 傍聴者 なし
- 5 議題
 - (1) 第9期妙高市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について
- 6 会議資料の名称
・資料 第9期妙高市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定に向けて
- 7 発言の内容
 - (1) 第9期妙高市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について

委 員	基本理念「健康でいきいきした生活ができる地域共生社会の実現」 に対して基本方針1「高齢者の健康づくりと介護予防の充実」、基本 方針2「生きがいをもって、安心して暮らせる体制づくり」、基本方 針3「持続可能な介護保険事業の運営」となった背景はどのようなか。
執行機関	高齢者を支える取り組み、健康維持のための取り組み、行政とし ての支援、介護が必要な方に過不足なくサービスを提供していく取 り組みについて検討し、基本方針1から3となった。
委 員	人生会議について、自分の意思を示しておくなどの資料はあるか。

執行機関	前段として人生会議について考えていただく必要があり、上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会でマンガのリーフレットを作成している。出前講座などで配布し、考えていただく機会を設けている。その後、自分の意思をノートに書き留めていただくことを考えている。
委員	介護予防のためには、若い頃からの生活習慣が重要であり、健康に関心がない人へのアプローチはどのようなか。
執行機関	若い頃から運動習慣をつける取り組みが必要と考えている。
委員	介護人材の不足についての取り組みはどのようなか。
執行機関	新潟県で取り組みを行っているが、市においても取り組みを検討していく。
委員	住宅改修支援事業について、制度の利用がない状況であるが続けていく必要があるか。
執行機関	要介護認定を受けたが、サービスを使わず、ケアマネジャーがついていないかたへの支援である。要介護認定を受けたほとんどのかたはケアマネジャーがついている。セーフティネットとしての支援事業である。
委員	権利擁護について、他市町村と比較した件数はどのようなか。
執行機関	令和5年6月末時点で妙高市では56名の利用である。人口が増えれば利用件数は増える。上越市で約は450名、糸魚川市約70名である。
委員	ケアマネジャーの会議は対面か、オンラインか。
執行機関	地域ケア会議は令和5年度、対面である。ケアマネジャーから少しの合間での相談のしやすさから対面を希望されている。
委員	認知症の相談窓口を知らない人が多いが知らせてほしい。
執行委員	認知症の相談窓口について、普及啓発し、周知していきたい。
委員	軽費老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の定員数の達成率が高い。令和5年度施設が1か所減となっているが、施設があれば入所者がいるのではないか。

執行委員	1 施設閉鎖した。待機者はおらず、新たなサービスを展開する必要性はないと考えている。
委員	サービス付き高齢者向け住宅が1施設閉鎖したが、危機感が必要ではないか。
執行委員	意見を聞きながら、取り組んでいく。
委員	妙高市の介護保険事業のサービス内容が細かく記載されており、全体が見えない。
執行委員	介護月報から介護保険事業のサービス利用を記載し、居宅サービス、地域密着サービス、施設サービスと分けて記載している。妙高市の特徴は冬期を考慮し、施設サービスが充実している。

8 その他

・今後のスケジュールについて

※事務局にて口頭説明

上記に相違ないことを確認する。

令和 5 年 11 月 10 日

氏名 妙高市介護保険運営協議会委員長

丸山明則